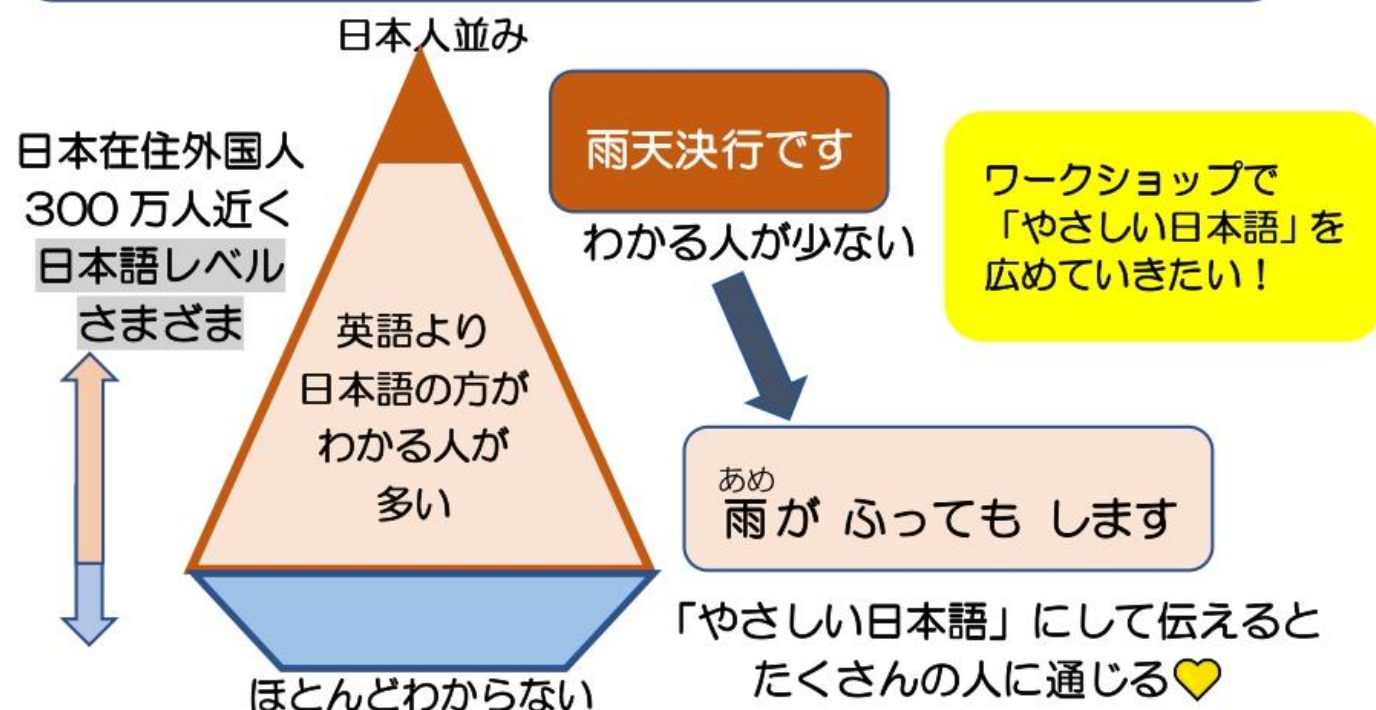


事業名 日本人向け「やさしい日本語」ワークショップ
— 在住外国人とのよりよいコミュニケーションのために —

実施団体
「やさしい日本語」を広める会

1. 会の願い

日本人、地域の外国人がともに住みやすい社会に♥
だから 外国人とのコミュニケーションに「やさしい日本語」を！



2. ワークショップに代わるものを！

コロナ禍での対面のワークショップは難しく、事業を変更

◆リーフレットの作成・配布

「やさしい日本語」を理解・活用してもらおうとリーフレットを提供
外国人と接する機会の多い保育・幼児教育施設向け

◆アンケート調査の実施 施設のコミュニケーション状況は？

**3. リーフレットとアンケートを保育・幼児教育施設
に送付**



上京区内すべてと
その周辺の施設等
94 か所

3割強の施設
からアンケート
回答

リーフレット PDF は、こちらから♪



4. 「アンケート結果のまとめ」送付

回答の分析・考察をまとめ、アンケート送付のすべての施設に、フィードバックするために送付

考察内容より (外国人の)保護者も頑張って日本語が上達される方もおられます。しかし、子育てしながら学習時間をとるのはとても大変です。生活の中で日本語に触れるきっかけを周りの日本人が少しずつ作ってあげるのもいいかもしれません。

5. ワークショップ実施への模索は継続

◆ワークショップ実施企画はしたのですが、結局コロナ禍で断念
次年度こそは！実現を目指します。

◆ワークショップ検討のためのインタビュー調査は 以前より
続けていました。

- ・外国人と接する日本人の方々(大学勤務の教師・職員、介護施設職員
技能実習生監理団体の日本語教師・アドバイザーなど)
- ・日本在住外国人の方々(介護施設職員、留学生、日本の幼稚園や保育園
に子どもを通わせている主婦など)

◆このインタビューは、ずっと続けています。外国人と接する
職場の皆さん ぜひ！お話お聞かせください。

詳しくは facebook ページをご覧ください。⇒



こんな拡がりもありました♪

2022.3.10.

南区「凌風学区子育て支援ステーションネットワーク会議」にて講演
保育・教育現場における「やさしい日本語」

—保護者へのおたよりを中心に—

増えつつある外国人園児、児童。従来の日本人保護者
向けのおたよりではわかってもらえない！
どうする？！



6. オンラインセミナーの実施(2022年3月12日)

外国につながる子どもたちと保護者とのよりよい
コミュニケーションのために—保育・幼児教育施設編—

オンラインセミナー
保育・幼児教育現場の皆さんは、外国につな
がる児童や保護者がいると、よりこ
ミュニケーションをとるために常に工夫しつづ
も、どうすればいいかわからない、悩ま
れることも多いと思います。
言葉を通じたり、「やさしい日本語」に
きかせるなどの方法はあるが、その一方で、
どのような考え方で言葉や文化の違いについて
向き合い、関係を築いていくのか、ということ
も知っておく必要があります。
今回は、異文化コミュニケーションを専門に研
究しながら、実際に日本や子育てをなさってい
る外国人の方を講師に、多文化共生や子どもの
言語発達の問題をふまえて、また、保護者として
の経験をもとにお話をいただきます。

日 時 3月12日(土) 10:30~12:00
対 象 保育士・幼稚園教諭など
子どもや保護者と関わり、子育て支援
に携わる方の方
定 員 申込者定員 50名
参 費 無料
申 込 ①QRコードでGoogle Formsを
②住所、氏名、連絡先を入力ください。
締 切 3月10日
授 課 者 永瀬 真由美 先生
「やさしい日本語」を研究し、
実践している。多文化共生や子どもの
言語発達の問題をふまえて、また、保護者として
の経験をもとにお話をいただきます。

講 師 佐々木 亜矢子
同文化女子大学 社会文化学部 異文化理解学
科 1 学部長。異文化から 25 年、一歩の
子どもが育ち育ち育ちで保育現場に
携わってきた。研究テーマは、「外国に
つなぐ子どもたち」と「多文化共生」
その他、異文化コミュニケーション、日本
の多文化共生に関心がある。

参加者 14 名
3 月 27 日まで
YouTube で
アーカイブ配信
再生回数 90 回

講師はカナダ出身
当事者目線で語られた
「日本での子育て経験
から感じること」は
参加者の心に響く内容
でした。

7. 今年度の活動での気づき

「英語を上手に話す必要はない」「ゆっくりと日本語で話し
てください」セミナーでの講師のお言葉です。日本語を話せる
外国人でも 早口で専門用語を使われると理解できず、聞き返
すのも遠慮してしまう。日本語でゆっくり話しながら、ふりが
な付き漢字で説明してもらった時、ほっとして嬉しかったと。

今後もっと外国人の SOS に耳を傾けつつ 対応に悩んでおら
れる現場の日本人に寄り添った活動をすすめていきたいです。

「やさしい日本語」を広める会の活動は、京都市の市政ポータル
サイト「まちづくり・お宝バンク」をご覧ください。

